

令和7年
2025年

3月21日
金曜日

第11675号

食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日
第三種郵便物認可

購読料 (前納)
年間 82,080円
(税込み)
6か月 42,120円
(税込み)

本紙は関連企業・団体との
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10
TEL03-6206-0929 FAX03-6206-0928

大阪本社
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



「十勝若牛」「会津地鶏」が新たにGI登録された……P4

注目のヘッドライン

食肉産業展セミナー「混迷する時代の明日のミートマーケットを読む」ブリッジインターナショナル・高橋代表が講演

…詳細はP2

「十勝若牛」「会津地鶏」が新たにGI登録—農水省

…詳細はP4

- ▶ 食肉産業展セミナー「混迷する時代の明日のミートマーケットを読む」ブリッジインターナショナル・高橋代表が講演…………… P 2
- ▶ [新刊]384銘柄を網羅「銘柄牛肉ガイドブック2025」発売開始…………… P 3
- ▶ 乳用牛への黒毛和種交配状況、第4四半期全国で1.4ポイント減…………… P 3
- ▶ ランピースキン病ワクチン接種福岡県由来の牛肉米国へ輸出再開—農水省…………… P 3
- ▶ 「十勝若牛」「会津地鶏」が新たにGI登録—農水省…………… P 4
- ▶ [配合飼料生産量・1月]計194万3922tで前年比0.8%増…………… P 5
- ▶ 3月の食品価格動向調査、国産牛肉は10円高、豚肉は2円高…………… P 5
- ▶ 全肉連、小学校の授業で使える食育教材「お肉の学習ガイドブック」を制作・発刊…………… P 6
- ▶ エバラ食品が自社オンラインショップで新商品「豚バラ焼肉ジャーキー」「豚キムチジャーキー」発売…………… P 6
- ▶ アグロルーデンスが試食会開催、代替肉「マイコプロテイン」で食料問題とエネルギー問題の解決を目指す…………… P 7
- ▶ EUがFOODEXで加盟27カ国のプレミアム製品を来場者に紹介…………… P 7
- ▶ [牛・豚肉の輸入予測数量]…………… P 8
- ▶ [鶏肉輸入数量予測]…………… P 8
- ▶ [肉類通関速報・2月]…………… P 8
- ▶ [資料]黒毛和種の交配状況…………… P 9
- ▶ [東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数]19日…………… P 10
- ▶ [各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場]19日…………… P 11

りんご和牛
信州牛
登録商標 第1394040号

信州プレミアム牛肉
登録商標 第5282895号 第5282894号

信州牛生産販売協議会

国産牛豚内臓肉、チルドビーフ、チルドポーク卸売

健康と食生活を演出する
ビセラル株式会社

〒123-0865 東京都足立区新田 2-8-12
営業一課 / ☎ (03) 3919-2929 FAX (03) 3919-2930
総務 / ☎ (03) 3919-2980 FAX (03) 3919-2941

<http://www.visceral.co.jp>

食肉産業展セミナー「混迷する時代の明日のミートマーケットを読む」 ブリッジインターナショナル・高橋代表が講演

食肉産業展2025の食肉情報セミナーが東京ビッグサイトで開催され、12日には月刊「ミートジャーナル」の連載でおなじみの(有)ブリッジインターナショナル・高橋寛代表(写真)による講演が行われた。高橋代表は「混迷する時代の明日のミートマーケットを読む」をテーマに、さまざまな問題が絡み合う現代の難解な世界情勢を分析し、食肉業界にとってこれからの指針を聴講者に分かりやすく解説した。講演の主な内容は次のとおり。

混迷の時代が続いているが、その主な要因としてこのセミナーでは三つのカテゴリーに分けて紹介する。

一つ目は「トラ・トラ・トラ」であり、米国のトランプ大統領の政策とそれへの日本の対応だ。二つ目は中国の動向であり、三つ目は地球温暖化による異常気象、干ばつと洪水だ。

一つ目のトランプ政権と日本の対応だが、トランプ政権は「米国に輸入される日本製品の関税は低過ぎる」「為替レートでは円が安過ぎる」といった主張を展開している。また、「日本向けの関税率は一見低い、非関税障壁が問題だ。為替が円安なのはアンフェアであり、対日貿易赤字が増えるのは円安のせい。これを是正しないと対日輸入関税を上げる」と圧力をかけている。

これに対して日本が取れる方策としては、日本が故意に円安を誘導していないことを説明すること。しかし、これに対して米国がどう反応するのか。

また、日銀の金利引き上げにより、徐々に円高が進み、インフレは抑制されるだろう。しかし、その副作用としてデフレ、景気の悪化、株式・不動産・国債価格などの下落の恐れがある。

さらに財務省・日銀の為替介入(円買い・ドル売り)は、本来であれば、急な為替変動(円安・円高)を安定させ、相場を適正な水準に誘導、輸入品価格の抑制になる。ただ、その副作用として為替介入に対して諸外国から批判が上がる。

トランプ政権がいくらまでの円高なら納得するのか。いずれにしてもこうした問題をトランプ政権と話し合いをしながら、納得させていくことが必要になる。

二つ目の中国の動向だが、中国ではASFが発生し

たことで、豚の生産頭数が減少し、豚肉の価格が上昇した。そこで中国では養豚の大規模化が進み、豚肉価格が下落。ただ、中国の生産頭数が減少した時期に輸入量を



増やしたため、豚肉の国際価格は上昇し、日本も国際市場で買い負けする事態となった。

しかし、将来的にみれば、中国での豚肉生産は比較的安定しているため、今後国際価格に影響を及ぼすような事態は少ないとみている。

また、米中関係はどうか。中国は米国からとうもろこしを輸入しているが、とうもろこし自体の備蓄量が多い。例えば今後数年間は、政治的な事情などで外国からの輸入が止まったとしても大きな問題にはならない。ただ、大豆はそうではないため、輸入が止まると厳しいかもしれないが、米国からの輸入量はそれほど多くない。そのため、米国との報復関税などがあっても、中国側にとってそれほど大きな影響はないかもしれない。関税が上昇したとしてもそれは国に入る金額が増えるので、その分を還元すれば良いだけだ。

三つ目の地球温暖化による異常気象、干ばつと洪水についてだが、私の場合、中長期で天候と畜産の関係をみている。その際に参考になるのがエルニーニョとラニーニョだ。ペルー沖の海水温度の高低が気候に大きな影響を及ぼす。

去年から今年にかけてはラニーニョだった影響により、日本では台風が多く発生。夏場は猛暑となり、冬は寒波となった。世界的にみると干ばつの多い豪州では雨が多く降り、牧草がよく育った。もちろん、米国においてもエルニーニョとラニーニョの影響は大きい。エルニーニョとラニーニョについてみていくことは、豪州や米国をはじめ、世界各国の畜産の将来的な予測を行う上で非常に役立つといえるだろう。

【新刊】384 銘柄を網羅「銘柄牛肉ガイドブック 2025」発売開始

黒毛和牛をはじめとする国産牛肉ブランドは、いまや国内に限らず、海外でも知名度を高めています。そしてその内容も、血統や飼料、育て方など、単に産地ブランドということにとどまらず、それぞれのブランドや牧場のこだわりが込められ、独自性の追求が行われています。

これにより、同じ国産牛肉でも、味わいやストーリー性、SDGsへの考え方など、さまざまな目的の中で生産が行われており、多様化する生活者や販売者の趣向や主義に対応するブランドがそろうようになってきました。

こうした中、食肉通信社ではこのほど「銘柄牛肉ガイドブック2025年版」を発売いたしました。発売に当たり、昨年秋ごろから全国のブランド牛肉の主たる生産者・出荷者を対象にアンケート調査を実施。その結果、384銘柄を収録いたしました。

主な掲載内容はブランド名・ロゴマーク▷生産・出荷などの実施主体▷飼育管理の方法など(出荷日齢、出荷体重、給餌飼料基準)▷対象食肉の処理および出荷など(と畜場名、処理工場名、年間出荷頭数、主な卸売企業、販売指定店制度の有無)▷商標登録の有無、GI登録の状況、規約の有無▷輸出に関

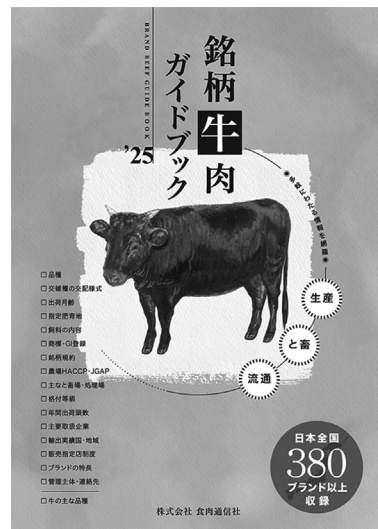
して▷ブランドの特長一などとなっております。

本書は隔年発行で、小売分野はもとより外食企業のバイヤーをはじめ、メニュー開発担当者ら幅広い分野から注目されています。また、マスコミや料理雑誌、

研究機関などからも注目いただいています。

商品政策の見直しやメニュー改訂時などの牛肉の導入の手引書として1社・1部署にそれぞれお備えいただきたく、お早めの購入をお勧めいたします。

図書名 銘柄牛肉ガイドブック2025▷体裁 B5版▷定価 2500円(税込み、送料別)▷ご注文方法 冊数・ご所属・お名前・ご住所・電話番号を明記の上、FAX06(6538)5510、もしくは弊社ホームページwww.shokuniku.co.jpまで。(株)食肉通信社



乳用牛への黒毛和種交配状況、第4四半期全国で1・4ポイント減

一般(社)日本家畜人工授精師協会が公表した令和6年第4四半期(10~12月期)の乳用牛への黒毛和種の交配割合は、全国で38・5%(前年同期比1・4ポイント減)、北海道で28・4%(0・8ポイント増)と

なった。また、性選別精液の割合は、全国で24・8%(3・7ポイント増)となっている。(9面に交配状況の表掲載)

ランピースキン病ワクチン接種福岡県由来の牛肉米国へ輸出再開一農水省

農水省は17日、米国向け牛肉について、ランピースキン病ワクチンの接種を行う福岡県に由来する牛肉の輸出が19日から再開されることを公表した。な

お、2024年の牛肉輸出額は648億円で、このうち米国内向けが135億円となっている。

「十勝若牛」「会津地鶏」が新たに GI 登録—農水省

農水省は18日、十勝若牛(北海道)や会津地鶏(福島県)など7産品を、地理的表示(GI)として新たに登録。省内では同日、登録証授与式が行われた。

冒頭、山本佐知子農水大臣政務官は「GI保護制度も本年で10周年の節目を迎えた。国内のGI登録数は150を超え、関係者の皆さまからは知名度の向上につながった、生産者の意識が大きく変わったという声が寄せられ、大変うれしく思う。地方の中核産業はまさに農林水産業である。楽しい農山漁村の創出に向けた付加価値向上、他産業との連携推進などの検討を進めている。GI産品は、まさに地方の産業を高付加価値化する高いポテンシャルを持った産品ばかりだ。農水省では、GI産品と地域の関連産業との連携、観光、とりわけインバウンドの活用を推進などを図り、ビジネスや地域の活力の向上に貢献していく」とあいさつした。

受賞者コメントでは、十勝清水町農業協同組合(十勝若牛)の口田靖明専務理事(上写真)から「生産者には、長年にわたり地域の特性を生かし、情熱をもって農業に取り組んでいただいたことに深い敬意を表す。皆さんの努力の結果、地域のブランドとしての地位を確立することができた。今回の登録は、長年の生産実績が実を結んだ結果であり、地域の農業を支える重要な要素となることは間違いない。国内だけでなく輸出の可能性にもチャレンジしていく。地域経済の活性化に寄与できると信じている」、会津養鶏協会(会津地鶏)の小平和広会長(下写真)から「まだまだ知名度が低い鶏だが、これを機会にブランド価値を高めていきたい」とそれぞれ今後の意気込みが語られた。「十勝若牛」「会津地鶏」の概要は次のとおり。

[十勝若牛] 清水町は、近代日本経済の父とされる渋沢栄一と近代酪農を広めた町村金弥により開墾され、古くから酪農が発展し、副産物の雄子牛を肉用素牛とする肉牛生産も盛んな地域である。平成3年の牛肉の輸入自由化を受けて、生産地の肉牛生産は、赤身のうまみがピークとなる若齢肥育に転換を図り品質的にも経済的にも最も効果的な独自の肥育技



術による生産方法を確立した。「十勝若牛」は黒毛和種特有の脂肪交雑由来による軟らかさとは異なり、キメ細かさによる軟らかな肉質で、かみしめるとうまみに富む肉のジューシーさが特長の赤身牛肉だ。ヘルシーな赤身肉として需要者からの引き合いも強く、一般的なホルスタイン種の牛肉と比較して高値で取引されている。

[会津地鶏] 「会津地鶏」の始祖は、平家の落人が会津に持ち込んだといわれており、美しい尾羽は450年以上前から郷土芸能「会津彼岸獅子」の獅子頭に使用され、鶏肉などは祝い行事などで珍重されている。昭和62年に絶滅寸前だったところを福島県が保護し、優良肉用種との交配・改良を重ね、平成3年に現在の「会津地鶏」を作出。平成11年には、地鶏肉JASの在来種にも規定された。肉色は赤みが強く、肉質はキメが細かく弾力があり、うまみ成分や食味に関与するアラキドン酸を多く含む。コクとうまみがあり、しっとりとした肉質がどんな料理にも合う食材として県内外の需要者から評価されており、福島県ブランド認証産品に認定されるなど、福島を代表するブランド地鶏となっている。

【配合飼料生産量・1月】計194万3922tで前年比0・8%増

農水省が19日に公表した1月の配合飼料の生産・出荷・在庫状況(速報版)によると、生産量は194万3922t(前年同月比0・8%増)、出荷量は195万4218t(0・4%増)となった。

そのうち養鶏用をみると、成鶏は生産量が45万3664t(9・1%増)、出荷量が46万226t(0・8%増)、ブロイラーは生産量が32万2224t(2・1%増)、出荷量が32万4335t(2・4%増)となっている。育すうは生産量が5万1257t(2・2%減)、出荷量が5万1841t(1・7%減)と前年同月を下回った。

養豚用の肉豚は生産量が21万1728t(1・1%減)、出荷量が21万4095t(1・4%減)、子豚も生産量、出荷量が共に前年同月を下回った。

肉牛用は生産量が38万7988t(1・1%増)、出荷量は38万9670t(0・4%

増)。肉牛用のうち子牛用は生産量、出荷量ともに前年同月を下回った。

配合飼料生産・出荷・在庫状況

単位:トン、%

	区分	生産量	前年比	出荷量	前年比	当月末在庫
養鶏用	計	827,145	100.7	836,402	101.3	11,111
	育すう	51,257	97.8	51,841	98.3	1,209
	成鶏	453,664	109.1	460,226	100.8	4,890
	ブロイラー	322,224	102.1	324,335	102.4	5,012
養豚用	計	468,069	99.9	471,633	99.3	17,257
	ほ乳期	53,622	100.9	53,219	98.6	8,247
	子豚	125,518	99.6	126,885	99.2	2,942
	肉豚	211,728	98.9	214,095	98.6	3,972
養牛用	種豚	77,201	102.5	77,434	102.3	2,096
	乳牛用計	256,624	102.5	252,621	99.6	30,291
	うち子牛用	13,698	102.9	13,466	98.0	3,715
	肉牛用計	387,988	101.1	389,670	100.4	32,601
	うち子牛用	53,042	97.3	52,233	96.1	9,266

注:工場数132

3月の食品価格動向調査、国産牛肉は10円高、豚肉は2円高

農水省大臣官房政策課食料安全保障室はこのほど、3月(10~12日)の「食品価格動向調査」(食肉・鶏卵)の調査結果を公表した。同調査は各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査を実施。価格は特売価格などを含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均となっている。

調査によると、国産牛肉(冷蔵ロース・100g)の全国平均小売価格は822円で前月比10円高、輸入牛肉(冷蔵ロース・100g)は394円で6円高だった。

豚肉(ロース・100g)は275円で2円高、鶏肉(モモ肉・100g)は144円と4円高となった。また、平年比では国産牛肉が3%安、輸入牛肉が25%高、豚肉が4%高、鶏肉が8%高となった。

大臣官房政策課食料安全保障室「食品価格動向調査(食肉・鶏卵)」による全国平均小売価格

(単位:円/100g、鶏卵は円/1パック)

調査期間	輸入牛肉 (冷蔵ロース)	国産牛肉 (冷蔵ロース)	豚肉 (ロース)	鶏肉 (モモ肉)	鶏卵 (サイズ混合・10個入)
令和6年3月 (3/10~3/12)	394	822	275	144	286
令和6年2月 (2/10~2/12)	388	812	273	140	276
令和6年1月 (1/14~1/16)	384	803	273	141	269
令和6年12月 (12/9~12/11)	384	813	274	138	268

注1:各都道府県10店舗(全国470店舗)について訪問調査。2:価格は特売価格等を含まない消費税込み価格で、全調査店舗の単純平均である。3:令和元年7月以降より、鶏卵の調査規格を「サイズ混合」に変更。

全肉連、小学校の授業で使える食育教材 「お肉の学習ガイドブック」を制作・発刊

全国食肉事業協同組合連合会はこのほど、令和6年度国産食肉理解促進食育実践事業の一環として、肉の食育教材「お肉の学習ガイドブック」を制作・発刊した。冊子版およびデジタル版の2種類が作られている。

このガイドブックは食育のスペシャリストと公益(社)全国食肉学校が監修し、小学校の授業に最適化したもの。教職員や保護者に向けて、文部科学省小学校学習指導要領から関連のある項目を抜粋した一覧表が掲載されているため、食育教材として活用できる学年、教科などがひと目で確認できる。

デジタル版は電子黒板やタブレットにフィットするようにページが構成され、シンプルで分かりやすく運用することが可能。ICT対応のデジタル副教材として、

児童らがスマートに活用できる。

さらに、必要なページだけをダウンロードすることも可能で、自由に印刷することができる。1枚の見開きに一つの内容が収まっており、そのままポスターとしても使いやすい。

なお、デジタル版は肉の食育サイト「おにくらぶ」からダウンロードできる。URLは次のとおり。<https://www.ajmic.or.jp/oniclub/>



エバラ食品が自社オンラインショップで新商品 「豚バラ焼肉ジャーキー」「豚キムチジャーキー」発売

エバラ食品工業(横浜市、森村剛士社長)は、公式オンラインショップ専売の新商品「豚バラ焼肉ジャーキー」(上写真)および「豚キムチジャーキー」(下写真)の2品を発売する。発売に伴い、応援購入サービス「Makuake(マクアケ)」で29日、「いいにく」にちなみ11時29分から予約販売を開始。予約販売開始に先立ちティザーサイトを18日から公開している。

両商品は、ジューシーな肉料理の味わいを手軽に楽しむことができる“肉料理ジャーキー”で、エバラ食品の特製ダレで味付けした厚切りの豚バラ肉を使用しており、仕上げに1枚ずつあぶっているので、軟らかくジューシーな食感と香ばしい香りが特長となっている。「豚バラ焼肉ジャーキー」はしょうゆのうまみをベースに香味野菜とスパイスを絶妙にブレンドし、もろみとみそを加えた食欲そそる濃厚な味わいに仕上げた。

「豚キムチジャーキー」は魚介のうまみとにんにくのこく、唐辛子の辛さを程よく効かせたキムチ風味の食

欲そそるピリ辛の味わいとなっている。

普段のつまみやおやつにはもちろん、ごはんのお供などでこれまでになかった“焼かない焼き肉”を体験できる。

ティザーサイトでは、商品の魅力や応援購入サービス「Makuake」で実施する先行販売に向けての情報を配信する。また、「AWESOMEET」(オーサミート=エバラ食品公式オンラインショップ)の公式LINEアカウントの友だち追加で事前登録すると、これらの商品をお得に購入できるクーポンが入手できる。

ティザーサイトURL:<https://yakinikujerky.com>
「AWESOMEET」公式LINE アカウント:<https://lin.ee/QTWnH8G>



アグルーデンスが試食会開催 代替肉「マイコプロテイン」で食料問題とエネルギー問題の解決を目指す

日本で唯一、米と^{こうじ}麴を主原料とした代替肉(マイコプロテイン)の本格製造を開始したベンチャー企業のアグルーデンスは、18、19日の2日間にわたって、東京都内で「2025年成果報告会および試食会」を開催した。国内初の生産に成功した米由来のマイコプロテイン原料や、同社が開発した和洋中の総菜関連商品を展示したほか、実際にマイコプロテインを配合したメニューの試食提案を行った。さらに、同社は昨年2月、マイコプロテイン製造で特許を取得して以来、実機テストを重ねる一方、マイコプロテインを配合した缶詰やレトルト食品の商品開発を進めており、その完成を踏まえ、18日にECサイトをプレオープン。通販事業も開始した。

同社が提案するマイコプロテイン製造は、従来の液体培養ではなく、米と麴を固体培養(発酵)する独自製法で特許を取得している。1~2週間を要する液体培養に対し、固体培養は約2日間の発酵で完成するため、安価な量産体制が確立できる。

食感は一ひき肉そのものだが、発酵によって増加する遊離アミノ酸は自然由来のうまみ成分で、さらに、麴



菌から産生されるオリゴ糖と酵素が腸内の善玉菌ビフィズス菌を増やして腸内環境を整える、タンパク質含有量は60%以上、脂質は3%以下で効果的に摂取したい人にお勧めの商品だ。

また、同社では、醸造会社とライセンス契約や共同研究開発を締結し、食品加工時に発生する絞汁残さや副産物などを合わせたアップサイクル素材の開発も強化する方針。米と麴で食料問題とエネルギー問題の同時解決を目指す。

ECサイト=お米発酵ぐらし Haccome (URL=haccome.jp)

EUがFOODEXで加盟27カ国のプレミアム製品を来場者に紹介

欧州連合(EU)は、11~14日に東京ビッグサイトで開催された「FOODEX Japan 2025」に出展。EUが展開する「パーフェクト・マッチ!」キャンペーンの一環として、EUパビリオンでは欧州の豊かな食の伝統、最先端の技術革新などを紹介し、EU加盟27カ国から350を超えるプレミアム製品を展示した。さらにライブ調理実演などを通じて、欧州が誇る食の安全基準や信頼性、サステナビリティへの取り組みを紹介。連日、多くの来場者が訪れた。

会期初日となる11日には、オフィシャル・オープニングセレモニーが開催され、駐日欧州連合代表部のアデルリン・ヒンドゥラー公使参事官通商部長(写真左)と、来賓を代表してあいさつした農水省輸出・国際局の森重樹局長(同右)によるテープカットも行われた。ヒンドゥラー公使は「2019年のEPA発効から

7年目となるが、日EU間の貿易は着実に増加し、とりわけ農産品・食品の貿易が顕著に増えていることを



うれしく思う。23年には日本向けの農産品・食品輸出額が83億ユーロに達した。今後さらに拡大する余地も十分あると考えており、そのためにも今回の出展は日本の皆さまにEUの製品を知っていただく、非常に良い機会になると考えている」と期待を寄せた。

【牛・豚肉の輸入数量予測】4月牛肉は9・3%減、豚肉は16・5%減か

農畜産業振興機構は19日、国内の主な輸入事業者で構成される牛肉および豚肉輸入動向検討委員会を開催し、2～4月の牛肉と豚肉の輸入数量を予測した。

それによると牛肉輸入量は、3月は冷蔵品が1万3800t(前年同月比24・0%減)、冷凍品が1万7400t(13・8%減)で合計3万1200t(18・7%減)と予測。4月は冷蔵品が1万5700t(13・6%減)、冷凍品が4万1600t(7・6%減)で合計5万7300t(9・3%

減)と予測。2～4月の3カ月平均は3万9300tと前年同期を11・1%下回ると予測している。

豚肉輸入量は、3月は冷蔵品が3万1千t(8・8%減)、冷凍品が4万2千t(4・1%増)で合計7万3千t(1・8%減)と予測。4月は冷蔵品が3万1千t(8・0%減)、冷凍品が5万1500t(20・9%減)と冷凍品が前年を大きく下回り、合計8万2500t(16・5%減)になると予測。3カ月平均は7万7100tと前年同期を2・7%下回ると予測している。

【鶏肉輸入数量予測】4月は計4万2900tで17・5%減か

日本食肉輸出入協会は19日、鶏肉に関わる輸入動向検討委員会を東京都内で開催し、2～4月の鶏肉輸入数量を予測した。

それによると2月は合計4万7590t(前年同月比14・1%減)で、タイが1万4700t(0・8%増)、米国が700t(12・5%減)、ブラジルが3万2100t(19・7%減)、その他が90t(95・7%増)と予測している。3月は合計4万3120t(18・1%減)、タイが1万3800t(13・3%減)、米国が570t(31・5%減)、ブラジルが2万8700t(19・9%減)、その他50t(55・8%減)と予測。4月は4万2900t(17・5%減)で、タイが1万4300t(13・4%減)、米国750t(47・3%増)、ブラジル2万7800t(20・4%減)、その他50t(5・7%減)と予測している。

委員会では、物価上昇に伴う消費者の生活防衛意識の高まりの中、価格優位性を有する鶏肉需要の高まりを背景に、鶏肉の輸入については、外食、総菜を含めた中食などの好調な需要に支えられ、引き続き堅調に推移するものと予測している。

ブラジル産の輸入については、ブラジル国内および韓国などの他国向け需要の高まりによる価格上昇により、日本向け輸出の減少傾向が続いている。

また、庫腹状況については、輸入量の減少傾向を受けて改善してきており、出回り量も順調のため調達への影響はないもよう。今後も不透明な為替、国内外での高病原性鳥インフルエンザの発生、入港遅延などの動向についても、注視していく必要がある、としている。

【肉類通関速報・2月】計20万5989tで前年比2・2%減

財務省が19日に公表した2月の貿易統計速報によると、肉類の輸入通関量は合計20万5989t(前年同月比2・2%減)と前年同月を下回った。米国からの肉類輸入量は3万6828t(4・7%減)と減少し、EUは2万4487t(42・3%増)となった。また、アジアからは5万1870t(0・7%減)と減少し、そのうち中国は1万2132t(6・5%減)、韓国は70t(26・3%減)、ASEANは3万9648t(1・3%増)となった。

肉類通関速報 (単位：トン、%)

	数量	伸び率
米国	36,828	-4.7
EU	24,487	42.3
アジア	51,870	-0.7
中国	12,132	-6.5
大韓民国	70	-26.3
ASEAN	39,648	1.3
肉類計	205,989	-2.2

[資料] 黒毛和種の交配状況

延べ人工授精頭数に占める黒毛和種精液授精頭数の割合

(単位:頭、%、県)

人工授精時期	項目	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中四国	九州	(参考)		
										都府県平均	全国平均	既調査県数
令和2年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,023,462	40,623	76,107	16,359	6,192	19,090	20,908	29,751			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	262,674 (25.7)	15,558 (38.3)	40,413 (53.1)	9,446 (57.7)	3,321 (53.6)	11,520 (60.3)	14,137 (67.6)	18,981 (63.8)	18,981 (63.8)	(51.4)	(37.3)
令和3年 1~12月	延べ人工授精頭数	1,011,877	37,891	73,267	15,879	5,754	17,860	20,734	27,549			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	251,333 (24.8)	13,937 (36.8)	38,290 (52.3)	9,239 (58.2)	2,872 (49.9)	11,201 (62.7)	14,703 (70.9)	18,050 (65.5)	18,050 (65.5)	(52.2)	(37.0)
令和4年 1~12月	延べ人工授精頭数	934,137	32,672	65,774	14,427	4,584	16,772	16,820	23,097			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	276,605 (29.6)	13,702 (41.9)	37,468 (57.0)	8,357 (57.9)	2,515 (54.9)	11,299 (67.4)	11,832 (70.3)	15,792 (68.4)	15,792 (68.4)	(55.6)	(41.1)
令和5年 1~12月	延べ人工授精頭数	919,482	30,653	58,863	18,850	3,759	15,040	15,748	19,928			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	267,280 (29.1)	13,031 (42.5)	33,496 (56.9)	12,937 (68.6)	2,295 (61.1)	10,344 (68.8)	11,683 (74.2)	13,813 (69.3)	13,813 (69.3)	(58.1)	(41.8)
令和6年 1~12月 (中間集計)	延べ人工授精頭数	849,622	29,361	57,438	17,921	3,487	14,059	14,251	18,015			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	231,670 (27.3)	11,666 (39.7)	30,039 (52.3)	12,067 (67.3)	2,054 (58.9)	9,599 (68.3)	10,463 (73.4)	11,691 (64.9)	11,691 (64.9)	(52.9)	(38.4)
2019年 10~12月	延べ人工授精頭数	270,480	12,059	21,219	4,979	2,118	5,224	6,135	8,727			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	71,609 (26.5)	4,857 (40.3)	11,237 (53.0)	2,865 (57.5)	1,114 (52.6)	3,050 (58.4)	4,236 (69.0)	5,409 (62.0)	5,409 (62.0)	(50.7)	(37.2)
令和2年 1~3月	延べ人工授精頭数	250,205	11,080	20,552	4,732	1,705	4,963	6,095	8,339			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	67,947 (27.2)	4,471 (40.4)	11,164 (54.3)	2,790 (59.0)	877 (51.4)	2,919 (58.8)	4,248 (69.7)	5,337 (64.0)	5,337 (64.0)	(52.1)	(38.4)
令和2年 4~6月	延べ人工授精頭数	249,001	9,972	19,311	4,167	1,579	4,797	4,824	7,040			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	66,260 (26.6)	3,880 (38.9)	10,393 (53.8)	2,351 (56.4)	848 (53.7)	2,829 (59.0)	3,108 (64.4)	4,355 (61.9)	4,355 (61.9)	(51.1)	(37.6)
令和2年 7~9月	延べ人工授精頭数	254,346	8,998	15,844	2,825	1,432	4,030	4,179	5,529			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	65,263 (25.7)	3,506 (39.0)	8,622 (54.4)	1,750 (61.9)	810 (56.6)	2,681 (66.5)	2,760 (66.0)	3,675 (66.5)	3,675 (66.5)	(53.2)	(38.0)
令和2年 10~12月	延べ人工授精頭数	269,910	10,573	20,400	4,635	1,476	5,300	5,810	8,843			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	63,204 (23.4)	3,701 (35.0)	10,234 (50.2)	2,555 (55.1)	786 (53.3)	3,091 (58.3)	4,021 (69.2)	5,614 (63.5)	5,614 (63.5)	(49.7)	(35.2)
令和3年 1~3月	延べ人工授精頭数	245,005	10,097	20,161	4,511	1,556	4,654	5,578	7,609			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	58,997 (24.1)	3,594 (35.6)	10,136 (50.3)	2,625 (58.2)	770 (49.5)	2,760 (59.3)	3,864 (69.3)	4,883 (64.2)	4,883 (64.2)	(50.6)	(35.9)
令和3年 4~6月	延べ人工授精頭数	250,078	9,223	18,578	3,753	1,607	4,440	5,143	7,032			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	59,498 (23.8)	3,169 (34.4)	9,336 (50.3)	2,265 (60.4)	756 (47.0)	2,663 (60.0)	3,632 (70.6)	4,515 (64.2)	4,515 (64.2)	(50.7)	(35.8)
令和3年 7~9月	延べ人工授精頭数	256,473	8,768	15,924	3,174	1,314	4,057	4,689	5,415			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	64,336 (25.1)	3,400 (38.8)	8,692 (54.6)	1,921 (60.5)	724 (55.1)	2,750 (67.8)	3,410 (72.7)	3,774 (69.7)	3,774 (69.7)	(54.8)	(38.3)
令和3年 10~12月	延べ人工授精頭数	260,321	9,803	18,604	4,441	1,277	4,709	5,324	7,493			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	68,502 (26.3)	3,774 (38.5)	10,126 (54.4)	2,428 (54.7)	622 (48.7)	3,028 (64.3)	3,797 (71.3)	4,878 (65.1)	4,878 (65.1)	(53.1)	(38.2)
令和4年 1~3月	延べ人工授精頭数	228,460	8,755	18,295	4,282	1,240	4,497	4,348	6,747			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	65,810 (28.8)	3,531 (40.3)	10,023 (54.8)	2,454 (57.3)	633 (51.0)	2,877 (64.0)	2,808 (64.6)	4,404 (65.3)	4,404 (65.3)	(53.0)	(39.5)
令和4年 4~6月	延べ人工授精頭数	233,056	7,985	16,238	3,716	1,224	4,190	4,490	5,629			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	67,645 (29.0)	3,316 (41.5)	9,025 (55.6)	2,144 (57.7)	588 (48.0)	2,690 (64.2)	3,331 (74.2)	3,704 (65.8)	3,704 (65.8)	(54.0)	(40.1)
令和4年 7~9月	延べ人工授精頭数	230,557	7,489	14,173	2,597	984	3,751	3,626	4,305			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	70,220 (30.5)	3,222 (43.0)	8,487 (59.9)	1,508 (58.1)	559 (56.8)	2,676 (71.3)	2,704 (74.6)	3,157 (73.3)	3,157 (73.3)	(59.1)	(43.1)
令和4年 10~12月	延べ人工授精頭数	242,064	8,443	17,068	3,832	1,136	4,334	4,356	6,416			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	72,930 (30.1)	3,633 (43.0)	9,933 (58.2)	2,251 (58.7)	735 (64.7)	3,056 (70.5)	2,989 (68.6)	4,527 (70.6)	4,527 (70.6)	(57.1)	(42.1)
令和5年 1~3月	延べ人工授精頭数	221,400	7,476	15,366	5,302	1,030	4,080	3,672	5,484			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	67,708 (30.6)	3,291 (44.0)	9,034 (58.8)	3,605 (68.0)	613 (59.5)	2,789 (68.4)	2,572 (70.0)	3,808 (69.4)	3,808 (69.4)	(58.8)	(43.0)
令和5年 4~6月	延べ人工授精頭数	222,995	7,597	14,250	4,673	976	3,684	4,032	4,876			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	64,626 (29.0)	3,284 (43.2)	7,881 (55.3)	3,105 (66.4)	601 (61.6)	2,397 (65.1)	2,971 (73.7)	3,992 (69.6)	3,992 (69.6)	(56.8)	(41.2)
令和5年 7~9月	延べ人工授精頭数	223,335	6,454	12,252	3,566	855	3,284	3,146	3,701			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	65,544 (29.3)	2,836 (43.9)	7,252 (59.2)	2,584 (72.5)	557 (65.1)	2,476 (75.4)	2,466 (78.4)	2,672 (72.2)	2,672 (72.2)	(60.8)	(43.1)
令和5年 10~12月	延べ人工授精頭数	251,752	9,126	16,995	5,309	898	3,992	4,898	5,867			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	69,402 (27.6)	3,620 (39.7)	9,329 (54.9)	3,643 (68.6)	524 (58.4)	2,682 (67.2)	3,674 (75.0)	3,941 (67.2)	3,941 (67.2)	(55.6)	(39.9)
令和6年 1~3月	延べ人工授精頭数	218,244	7,932	16,035	5,386	959	3,651	4,028	5,259			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	58,199 (26.7)	3,194 (40.3)	8,523 (53.2)	3,463 (64.3)	516 (53.8)	2,411 (66.0)	3,087 (76.6)	3,458 (65.8)	3,458 (65.8)	(53.8)	(38.4)
令和6年 4~6月	延べ人工授精頭数	213,228	7,294	14,201	4,498	808	3,391	3,086	4,370			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	54,837 (25.7)	2,867 (39.3)	7,102 (50.0)	2,920 (64.9)	469 (58.0)	2,194 (64.7)	2,308 (74.8)	2,922 (66.9)	2,922 (66.9)	(50.6)	(36.5)
令和6年 7~9月	延べ人工授精頭数	198,947	6,243	11,391	2,820	779	3,026	2,949	3,099			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	56,285 (28.3)	2,549 (40.8)	6,230 (54.7)	2,021 (71.7)	516 (66.2)	2,299 (76.0)	2,116 (71.8)	2,090 (67.4)	2,090 (67.4)	(54.9)	(39.8)
令和6年 10~12月 (中間集計)	延べ人工授精頭数	219,203	7,892	15,811	5,217	941	3,991	4,188	5,287			
	うち黒毛和種授精 (黒毛和種の割合:%)	62,349 (28.4)	3,056 (38.7)	8,184 (51.8)	3,663 (70.2)	553 (58.8)	2,695 (67.5)	2,952 (70.5)	3,221 (60.9)	3,221 (60.9)	(51.6)	(38.5)

(注) 都府県平均及び全国平均は、都道府県毎の黒毛和種授精牛の割合(%)を、各年2月1日時点の成畜飼養頭数により加重平均したものであり、地域毎の数値の合計とは一致しません。

東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 3月19日
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	4,099	2,330	-	-	-
		安値	2,170	2,159	-	-	-
		平均	2,501	2,220	2,000	-	-
	74頭	頭数	48	25	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
	-頭	頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,244	2,439	2,228	-	-
		安値	2,160	2,052	2,053	-	-
		平均	2,490	2,248	2,160	-	-
	207頭	頭数	139	59	9	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	-	1,495	1,426	1,374	-
		20頭	頭数	-	4	9	7
	雌 C	平均	-	-	-	-	-
		-頭	頭数	-	-	-	-
	去 B	平均	-	1,533	1,497	1,394	-
		20頭	頭数	-	4	13	3
去 C	平均	-	-	-	-	-	
-頭	頭数	-	-	-	-	-	

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	299	1,087	-	(競り)	(相対)	
売買	415	1,044	404.5	-	-	74

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,413	1,976	1,463	1,312	-
	B	-	1,337	1,293	1,167	1,081
和 去	A	2,505	2,343	2,110	-	-
	B	-	2,059	-	-	-
乳 雌	B	-	-	-	878	868
	C	-	-	-	1,023	870
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,623	1,481	1,289	-
	C	-	1,416	1,475	963	973
交 去	B	1,660	1,628	1,507	1,411	-
	C	-	-	1,377	1,327	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	648	694	661	585	542
	安値	634	594	540	443	97
	平均	641	627	592	544	464
	頭数	(2)	(281)	(457)	(215)	(89)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
搬入相対	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	平均	-	-	-	-	-
	頭数	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)

[大阪食肉卸売市場] 3月19日
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) []は豚規格

	5[極上]	4[上]	3[中]	2[並]	1[等外]
和 雌 A	2,512	2,337	2,011	-	-
(頭数)	(19)	(7)	(1)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(2)	(1)	(-)
和 去 A	2,525	2,187	-	-	-
(頭数)	(4)	(2)	(-)	(-)	(-)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	-	1,694	1,526	-	-
C	-	1,620	1,470	-	-
交雑去 B	-	1,734	1,539	-	-
C	-	-	-	-	-
豚	-	640	617	509	485

[全国と畜概算頭数]
農水省統計部発表 (頭)

	3月19日	3月18日	(3月累計)
豚	73,100	71,500	878,100
成牛計	4,290	4,450	58,320
和牛雌	880	1,220	14,010
和牛去勢	1,140	970	15,590
乳牛雌	880	900	9,000
乳牛去勢	440	670	6,710
交雑雌	530	340	5,780
交雑去	420	350	7,100

[去勢牛B3・2規格 枝肉取引価格] 3月19日

	1,466円(前日 1,428円)
東京	
	1,336円(前日 1,529円)
大阪	

[豚・全農建値] 3月19日

上	中	取引頭数	市況
618円	592円	1,463頭	強もちあい

と畜	牛 84頭	豚 58頭	牛概況	もちあい
売買	牛 53頭	豚 168頭	豚概況	まちまち

各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 3月19日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	616 (616)	- (-)	6,127	-	もちあい
仙台 [中]	563 (542)	533 (502)	585	96	反発
宇都宮 [地]	623 (562)	561 (542)	1,485	87	急反発
茨城 [地]	616 (619)	589 (596)	1,392	735	小幅安
群馬 [地]	620 (615)	514 (529)	2,656	404	小幅高
さいたま [中]	603 (604)	588 (584)	251	253	もちあい
東京 [中]	627 (625)	592 (600)	1,087	1,044	もちあい
横浜 [中]	626 (620)	598 (595)	649	647	上伸
山梨 [地]	601 (661)	568 (631)	201	173	急落
浜松 [地]	584 (-)	554 (-)	374	33	下押し
名古屋 [中]	592 (562)	542 (535)	973	213	反発
京都 [中]	- (638)	- (611)	-	-	休市
大阪 [中]	640 (-)	617 (603)	58	134	まちまち
神戸 [中]	800 (772)	791 (790)	78	60	上伸
岡山 [地]	646 (669)	655 (657)	310	275	弱気配
広島 [中]	596 (626)	581 (593)	175	88	急落
福岡 [中]	574 (579)	553 (546)	452	103	反落

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 3月12日~3月18日
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,540,487 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,067	1,207	1,254	1,175	77,907
うで	740	810	849	798	118,407
ロース	1,067	1,164	1,282	1,170	134,223
ばら	1,167	1,243	1,294	1,237	162,641
もも	756	782	834	792	196,609
ヒレ	1,080	1,212	1,296	1,183	10,140
セット	931	1,023	1,065	1,016	840,560

◇近畿圏 総重量 639,962 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,138	1,285	1,378	1,279	50,903
うで	727	746	778	750	116,327
ロース	1,062	1,207	1,266	1,178	86,240
ばら	1,177	1,242	1,274	1,232	112,827
もも	729	756	799	758	140,067
ヒレ	972	1,111	1,296	1,132	10,277
セット	921	1,004	1,065	993	123,321

[食鳥正肉日経相場] 3月18日
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	692	741	858	149
ムネ	356	391	502	141

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	686	733	1,030	9
ムネ	354	409	590	8

[農水省統計情報部食鳥市況] 3月18日
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽ト	手羽キ	ササミ
高値	18日分は24日掲載				
安値					
平均					

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日期間中（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉業界紙のパイオニア

食肉通信の 専門紙・誌と本

食肉業界のあらゆる情報を迅速・正確に伝えるべく、日刊、週刊、月刊の3紙を定期発行。食肉関連の情報を網羅した週刊「食肉通信」、日々のニュース速報に特化した日刊「食肉速報」、市場分析などテーマ性の高い情報を詳細に掘り下げる月刊「ミート・ジャーナル」を基幹媒体として、食肉に関する専門書籍を多数発行しております。

◆業界動向がデータでわかる 数字でみる食肉産業

生産から流通、販売まで関連分野のデータを集積。B5判。年1回発行。

B5判 472頁 4,191円(送料別)

◆畜産・食肉業界の動向大全 日本食肉年鑑

現状分析と将来の展望、戦略構築に必携の一冊。関係名簿、畜産・食肉需給の動向、食肉流通の動向、食肉加工品関係の売れ筋動向なども収録。年1回発行。

B5判 500頁 14,850円(送料別)

◆食肉販売&経営関連

銘柄牛肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄牛肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

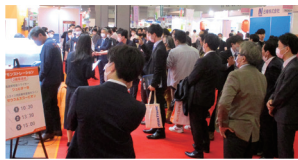
銘柄豚肉 ガイドブック

隔年刊。全国の銘柄豚肉の品種、飼養管理の方法、生産・出荷の実施主体、食肉処理と出荷・販売先、飼養頭数、ブランドの特徴、輸出の状況など最新データを満載。

B5判 240頁 定価2,200円(送料別)

◆イベント

◆国内で唯一、 最大級の食肉総合見本市



食肉産業展

食のグローバル化が目覚ましい発展を遂げる中で、和牛に象徴される日本独自の食文化を守り今後の成長を促すため、多彩な素材食品、加工技術、販売手法、管理システムを一堂に集めて提案いたします。

(HP) <https://www.shokuniku-sangyoten.jp/>

お申し込みは電話かFAXで
お近くの食肉通信社まで

株式会社 食肉通信社

◆大阪 〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48

TEL 06(6538)5505 FAX 06(6538)5510

◆東京 〒101-0021 東京都千代田区外神田2-14-10

TEL 03(6206)0929 FAX 03(6206)0928

◆九州 〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12

TEL 092(271)7816 FAX 092(291)2995

※東京事務所は2025年2月10日より上記の新住所に移転しました。電話・FAX番号も変更となりましたので、宜しくお願致します。

週刊 食肉通信



食肉全般の行政、業界ニュースをはじめ、新製品や食肉店経営のページ、量販店・外食、食肉組合、食肉市場などのニュースのほか、週間・月間市況や全国の食肉市場の牛・豚肉相場、食鳥相場など、国内外の生産から商社、卸、小売まで広範な情報を掲載しています。わが国唯一の食肉専門紙。

発行は毎週火曜日、ブランク判8~12ページ、価格は年間25,000円(税・送料込)

日刊 食肉速報



食肉関連に関する行政、業界の動向をはじめ、国産(牛枝肉・部分肉、豚枝肉・部分肉、プロイラー)と輸入(米国産やカナダ産の牛肉・豚肉、豪州産牛肉など)の相場市況を毎日掲載するとともに、企業情報・企業倒産など日々の業界ニュースをお届けします。

発行は月曜日から金曜日、A4判14ページ、価格は年間82,080円(税・送料込) ※軽減税率対象

月刊 ミート・ジャーナル



食肉の流通チャネルが多様化する中で、その時々のもっとも話題性の高いテーマを多角的視野で捉え、現場をレポート・分析。あわせて食肉・食肉製品など総業の製造・流通・販売の現場ですぐに役立つ技術情報などを掲載する月刊専門誌。

発行は毎月月上旬、B5判120~150頁、価格は年間23,100円(税・送料込)

◆教材&レポート等

◆あなたの常識を強固にする 今さら聞けない肉の常識

平野正男 著
鏡 晃

肉はなぜ赤いのか、しゃぶしゃぶがおいしい理由は?など66の常識をわかりやすく解説。

A5判 152頁 定価1,500円(送料別)

◆知識を豊かにする

食肉用語事典〈新改訂版〉

日本食肉研究会編 A5判 506頁 定価7,000円(送料別)

◆~食肉のプロフェッショナルを育てる~シリーズ

牛枝肉・牛部分肉の見方 牛肉の見方を簡単図解

牛枝肉・牛部分肉について、各方面のプロに幅広く取材し、「牛枝肉、牛部分肉のポイント」について分かりやすくまとめた待望の入門書。

B5判 90頁 定価3,000円(送料別)

◆ステーションナリー

食肉手帳 DIARY

毎年発行し好評をいただいている業界人必携の手帳がグレードアップ。機能性、食肉価格などの資料も充実し、日頃の業務をサポートします。名入れも可。

横9.4cm×縦14.5cm 定価990円 ※購入される冊数によって価格は変動します